

令和元年度

# 龍ヶ崎市定住促進プロジェクト成果報告書



龍ヶ崎市

市長公室企画課

令和2年3月

# 目 次

1	龍ヶ崎市定住促進プロジェクトの概要について	
(1)	設置の目的等 -----	1
(2)	構成メンバー -----	1
(3)	スケジュール及び活動内容 -----	2
(4)	今年度の検討内容（方向性）及び施策提言案 -----	4
2	報告書編	
	成果報告書（令和2年2月18日成果報告会資料）	
	「データ・ヒアリングから見る市と企業の関係性のあるべき姿 ～住み続けたい、戻ってきたい、愛したい街の実現へ～」 --	5
	【コラム】「対話」を進めるための… -----	44
	定住促進プロジェクト流アイデア集	
3	資料編	
(1)	成果報告会アンケート結果 -----	45
(2)	龍ヶ崎市定住促進プロジェクト設置規程 -----	49
(3)	龍ヶ崎市定住促進プロジェクト設置要領 -----	51

# 1 龍ヶ崎市定住促進プロジェクトの概要について

## (1) 設置の目的等

我が国においては、今後、急激な人口減少が予測されており、龍ヶ崎市においても、その波を避けることはできず、現に人口は、平成22年の8万334人をピークに、年々減少傾向となっている。そのような状況において、人が集まる魅力ある都市づくりを推進し、人口を呼び込み、人口を減らさないための定住促進に向けた施策の展開は、喫緊の課題である。

それら定住促進施策の立案と実行に当たっては、これからの龍ヶ崎市を担う若者世代が自ら考え、行動する、といった意識を高めていくとともに、若者世代の意見等を施策に反映させていくことが重要である。

そのため、龍ヶ崎市では、平成30年度より原則主幹級以下の若手職員の組織横断的な取組により、定住促進に関する必要な調査検討を行い、若者の視点から導き出された施策案を提言するため、本プロジェクトを設置し、本年は2年目の活動である。

## (2) 構成メンバー

課 等 名	職 名	氏 名	備 考
財政課	副主幹	堀内 紗矢香	
企画課	副主幹	岩本 達也	サブリーダー
シティセールス課	主幹	関口 裕城	サブリーダー
生活支援課	主幹	建林 尋乃	
こども家庭課	副主幹	田中 佑典	
健康増進課	主幹	水本 奈津子	
保険年金課	主事	根本 祐樹	
市民窓口課	主幹	照井 頌子	
税務課	係長	小島 徹	リーダー
交通防犯課	主幹	飯島 龍一	
商工観光課	主幹	櫻井 壮	
農業政策課	主幹	福山 貴之	
都市計画課	主事	窪田 真也	
都市施設課	副主幹	野崎 浩太郎	
指導課	主幹	佐藤 美穂	

(3) スケジュール及び活動内容

日 程	内 容
平成31年 4月26日	第1回：今年度の活動方針，スケジュールについて
令和元 5月17日	第2回：平成30年度提案事業（短期）「龍ヶ崎をマチアルキ」「龍ヶ崎をススメ」に係るまち歩き（フィールドワーク）のテーマ設定等
5月27日	<p>平成30年度提案事業（短期）「龍ヶ崎をマチアルキ」「龍ヶ崎をススメ」 龍ヶ崎市立馴柴小学校での出前授業（第1回）※ 第3学年対象</p> 
6月21日	<p>第3回：平成30年度提案事業（短期）「龍ヶ崎をマチアルキ」「龍ヶ崎ヲススメ」まち歩き（フィールドワーク）実施</p> 
7月23日	第4回：次期「まち・ひと・しごと創生」の情報共有等
8月16日	第5回：今年度施策提言に向けた協議
8月29日	市内企業ヒアリング実施（北三株式会社茨城工場）
9月26日	第6回：今年度施策提言に向けた協議，今後の方向性の整理
10月24日	第7回：今後の方向性の整理
10月29日	<p>裾野市議会（会派「はやぶさ」）の視察受入れ</p> 
11月14日	第8回：平成30年度提案事業（短期）「おススメの龍ヶ崎・仕事紹介を庁内へ」に係る庁内報の作成，成果報告会へ向けた分担，スケジュール作成

日 程	内 容
12月26日	第9回：平成30年度提案事業（短期）「おススメの龍ヶ崎・仕事紹介を庁内へ」に係る庁内報の作成
令和2年 1月7日～	平成30年度提案事業（短期）「おススメの龍ヶ崎・仕事紹介を庁内へ」に係る庁内報の配布 
1月23日	第10回：施策案の検討
1月下旬～ 2月上旬	企業連携に関する部長ヒアリング実施
2月3日	第11回：成果報告会に向けた資料作成
2月14日	第12回：成果報告会に向けた資料作成
2月18日	成果報告会における報告 
3月2日	平成30年度提案事業（短期）「龍ヶ崎をマチアルキ」「龍ヶ崎をススメ」 龍ヶ崎市立駒柴小学校での出前授業（第2回）※ 第3学年対象 ※ 新型コロナウイルスの影響により中止
3月4日	平成30年度提案事業（短期）「龍ヶ崎をマチアルキ」「龍ヶ崎をススメ」 龍ヶ崎市立松葉小学校での出前授業 ※ 全学年対象 ※ 新型コロナウイルスの影響により中止

#### (4) 今年度の検討内容（方向性）及び施策提言案

今年度の龍ヶ崎市定住促進プロジェクトにおいては、昨年度提言の施策・事業を試行的に実施しながら、昨年度のデータ分析から導き出された3つの方向性（「龍ヶ崎市を知るきっかけづくり」「人口の流出防止」「シビックプライドの醸成」）を継承しつつ、さらなるデータの収集及び分析を行った。

その中で、本市の経済関連のデータを収集すべく、引き続き、地域経済分析システム（RESAS）や他の統計情報を調査していったところ、環境省が提供している「地域経済循環分析」の中に、本市の産業にとって特徴的なデータを発見した。

そのデータを分析しつつ、実際に企業を訪問し、ヒアリングを行い、企業の現状や実際の状況などを確認するとともに、他市の事例を収集し、分析を加えながら、企業と市の連携のあり方を検討することとした。

それらの方向性を踏まえ、今年度は、定住促進を意識した市と企業の連携に特化し、4つの施策案を提言することとしたが、施策案の提言に当たっては、

### 企業の意識や動きを注視し、「活用」から「連携」へ

という視点を軸に据えた。

なお、提言した施策案の詳細については、報告書編（5ページから43ページまで）を参照のこと。

#### 【提言した施策案の一覧】

- ・ 市内企業の合同就職説明会
- ・ 市内企業の紹介ページ作成
- ・ 市内企業を巡るサマーキャンプ
- ・ 市と企業の双方にメリットがある連携協定



＝2020定住促進プロジェクト成果報告会＝

<人が元気 まちも元気 自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎>

## データ・ヒアリングから見る 市と企業の関係性のあるべき姿

～住み続けたい、戻ってきたい、愛したい街の実現へ～

2020年2月18日  
龍ヶ崎市定住促進プロジェクト

はじめに

### 本日の報告会の流れ

1. 定住PTの概要
2. 去年の振り返り
3. 今年度の取り組み
  - ・ 短期施策の実行（庁内報&出前授業）
  - ・ データの再検証で見えてきたもの
4. 市の現状
5. 施策の方向性提案
6. まとめ

# I. 定住PTの概要



## 定住PT概要

## 定住プロジェクトのメンバー紹介



総務部



市長公室



福祉部



健康づくり推進部

<育休中>  
水本奈津子  
(健康増進課)



市民生活部



産業経済部



都市整備部



教育委員会

各部から様々な人材で構成されています

事務局：企画課 小室

情報収集・データ分析



施策の検討



施策の提案・実行



＝2020定住促進プロジェクト成果報告会＝

## 2. 昨年の振り返り



## 昨年度報告のポイントを駆け足で…

### 人口減少時代が到来!人口流出防止策が急務

- ✓平成22年の80,334人をピークに減少傾向。
- ✓近年は出生率の低下、死亡数の増加、転出超過などの傾向。
- ✓推計よりも早く人口減少が進行(2018.10-77,577人 予測2025年-72,859人)
- ✓人口推計値では、平成52年(2040年)には60,280人になると予測。
- ✓転出超過のなかで、流入策だけではなく、特に**人口の流出防止策が急務**な時代に



## 昨年度報告のポイントを駆け足で…

### 産業が満遍なくある街 龍ヶ崎

本市には様々な**産業がまんべんなくあるのが特徴**の一つです。また、売上高をみても企業城下町のように大企業があり、稼ぎを生み出している状況ではありません。







### 3. 今年度の取り組み

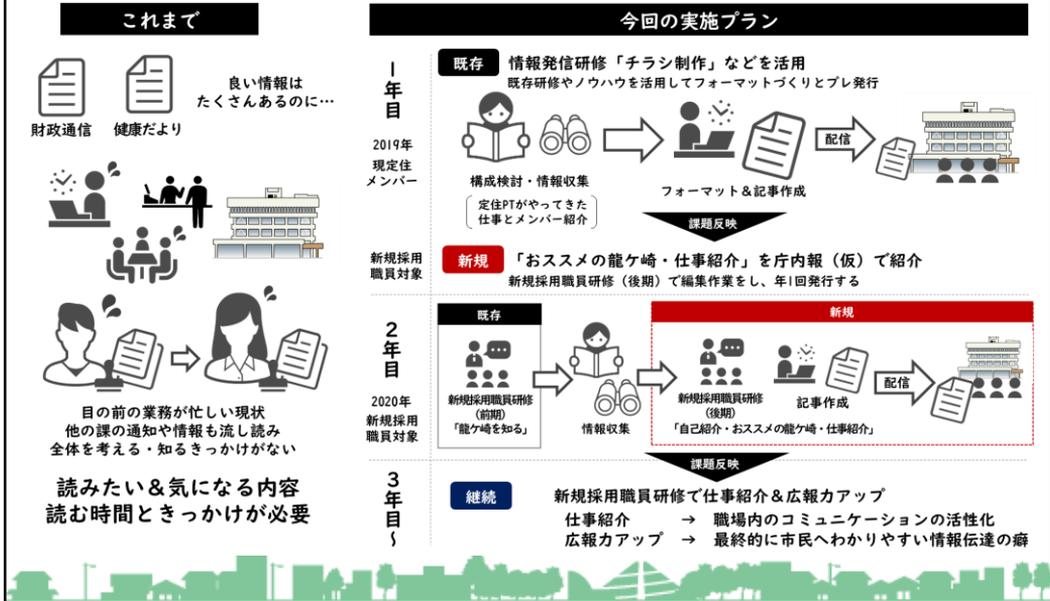


#### 実行した提案施策

### 提案した3つの短期施策を実行

- ・ 庁内報の発行
- ・ 龍ヶ崎をマチアルキ
- ・ 小学校での出前授業

## 実行した提案施策【庁内報】



## 実行した提案施策【庁内報】



**定住PTの取り組みを紹介  
メンバーも紹介し、興味をもってもらう  
読んでもらうために、手渡しを意識**

## 庁内報のアンケートから

### 最も興味を持った記事は？

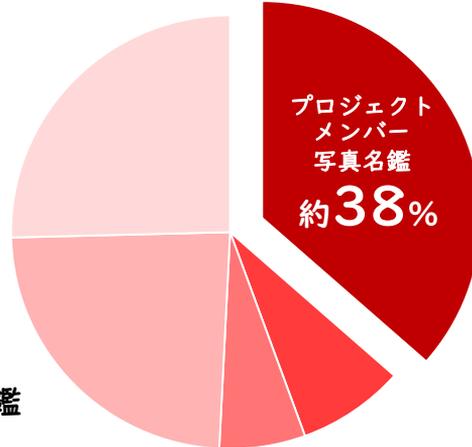
#### プロジェクトメンバー写真名鑑

- ・職員だから気になる
- ・知らないことを知れる

### 年代別にみると…

- 20～40代：  
プロジェクトメンバー写真名鑑
- 50代～：  
定住PTを財政通信風に伝えてみる

最も興味を持った記事は？



n=63

## 庁内報のアンケートから（自由意見）

### 庁内一体となって考えないといけない

定住Pでは限界があるので、考えた施策を担当部署にブレークダウンしないと、なかなか進まないと考えます。

職員が龍ヶ崎市に誇りを持たないと。

### 職員からは「興味を持った」との声も

メンバー以外の方は、実際にはいつもどんなことどんな会議してるのか、知らないから「めんどくさくない？課の仕事以外にやるなんて無理」みたいなことにもなるのかもしれないけど、今回の紙面で色々興味をもてました。

### 先生には龍ヶ崎ファンが多いとの意見も…

「龍ヶ崎の学校で働きたい」  
ファンの先生も少なくないと思います。

### 参加してみたいと意識が変わった職員も

“分かりやすく伝える”ことを前提に作成された良い試み  
プロジェクトに参加したいと今回の通信を読んで、意識が変わりました。

### 一方で反省点も…

途中の作業経過などをお知らせしてもよいのかな。

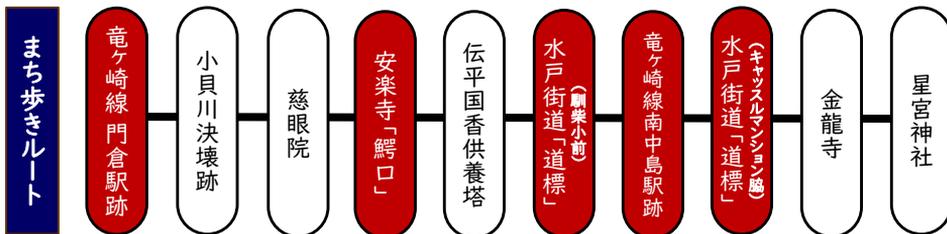
## 実行した提案施策【マチアルキ】

### まずは職員自身がまちに愛着を！

マチの魅力を伝えるためには・・・

### 職員自身がもっと龍ヶ崎のことを知らなければならない！

という思いのもと、まずは定住促進プロジェクトのメンバー自らがマチアルキを実施し、龍ヶ崎の魅力や歴史を再発見してきました。



## 実行した提案施策【マチアルキ】



### 今はなき2つの竜鉄の駅

関東鉄道竜ヶ崎線の歴史を遡ると、竜ヶ崎駅と入地駅間に「門倉駅」、入地駅と佐貫駅間に「南中島駅」が存在していました。この2駅は、惜しまれながらも1957年に廃止となりました。



### 県指定文化財 鰐口って何？

参拝者が祈念のため打ち鳴らす仏具、鰐口。川原代にある安楽寺では、県指定文化財の鰐口を恐れ多くも実際に手に取らせてもらいました。



### 江戸の重要な街道の証

水戸街道に存在する道標(どうひょう)。これは、通行人の便宜のため、道の方向や距離などを記した標識で、この場所が街道の合流地点であったことを示しています。

## 実行した提案施策【出前授業】

愛着を高めることがまちの活性化に繋がる

### 馴柴小3年生への授業

「りゅうがさきのことを知ろう、かんがえよう、つたえよう～りゅうがさきのこと、すきですか?～」

職員＝授業のために調べる



学ぶことで新たな知識や発見  
結果：愛着も高まる



## 実行した提案施策【出前授業】

愛着を高めることがまちの活性化に繋がる

### 授業であったこと

「佐貫駅は昔はたんぼの中」  
「金龍寺の小坊主の話」



子どもたちも知らない  
先生も知らない



「驚き」は知識になる

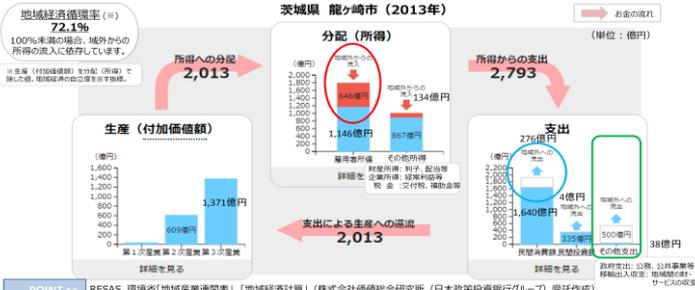


## 龍ヶ崎は外にお金が出ていきやすい

### 市外で稼いできたお金が市内消費がされない・・・

市外で稼がれたお金(所得)が龍ヶ崎市内の事業者で消費されにくいのも本市の特徴です。市外で支出されている傾向が見られます。

▶ 地域内のお金の流れを「生産」、「分配」、「支出」の三段階で表示し、各段階におけるお金の流出・流入状況を把握できる



⇒市内で稼げる企業は？との疑問が・・・

## データを違う資料から再分析してみました

昨年度



+

市独自データ

今年度

地域経済循環分析



※RESAS内にあったデータがより詳細に分かる資料

## RESASとは…



### ビッグデータで可視化するツール

地方創生のデータ利用の「入口」として、地域経済に関する官民の様々なデータを、地図やグラフ等で分かりやすく「見える化」しているシステム  
⇒ 各地域が、自らの強み・弱みや課題を分析し、その解決策を検討することを後押しするツール

### このデータで分かること

人口や産業構造、ナビの検索データ、通勤通学先など様々な情報

### 国で推奨する活用方法

勤や経験や思い込み（KKO）ではなく、データに基づく政策立案  
（EBPM：Evidence-Based Policymaking）

様々な角度から地域の特徴を  
「見える化」するデータが集まったシステム

## 地域経済循環分析とは…



### お金の流れを見える化するツール

地域の所得(お金)の流れを生産、分配、支出(消費、投資等)の三面で「見える化」

地域経済の全体像と地域からの所得の流入出を把握し、所得の循環構造を把握

### このデータで分かること

「地域に稼ぐ力があるか？」「地域からどの段階で所得がどの程度漏れているか？」「地域の産業構造は？」などの地域の経済の特徴(長所・短所)

稼ぐ力を「見える化」できる  
データが集まったシステム

## 出席者の皆さんに質問

地域経済循環分析から見えてきたデータ

→ 龍ヶ崎市で市外から所得を獲得している産業は次のうちどれでしょう

1. 食料品製造業

2. 生産用機械業

3. 木材・木製品製造

4. ゴム製品製造



## 龍ヶ崎の製造業の事業所数

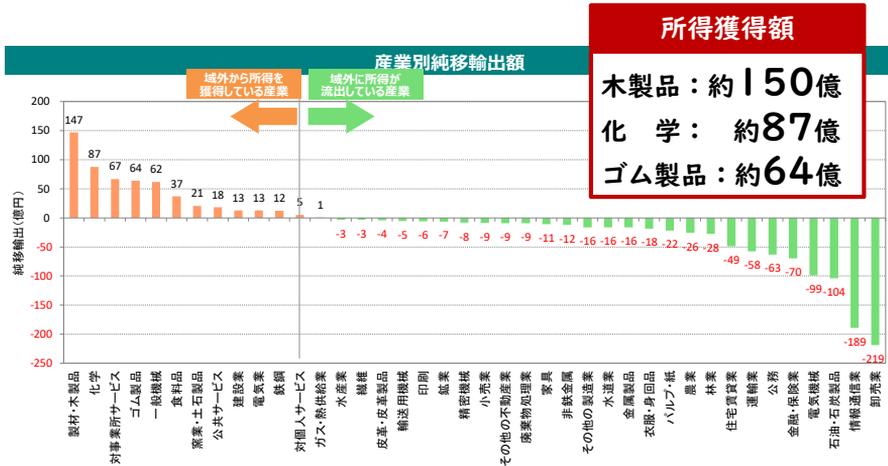
- ・ 食料品  
21事業所
- ・ 生産用機械  
13事業所
- ・ 金属製品  
12事業所
- ・ 木材  
7事業所



⇒ 事業所数で見ると、大きい産業ではない



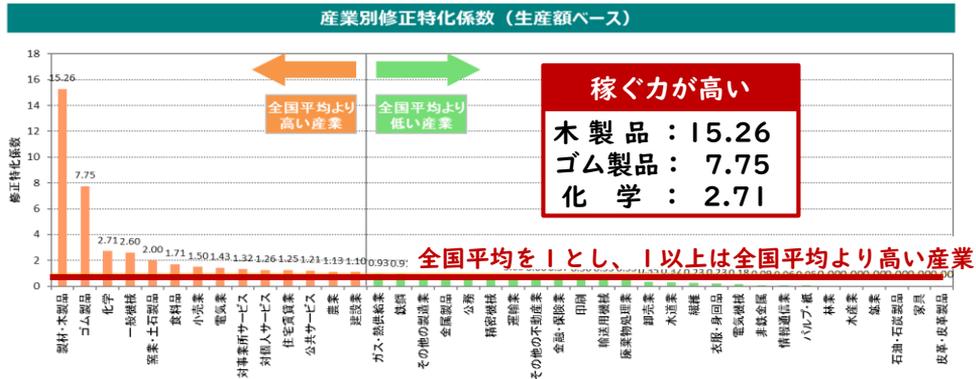
## 木材が地域外から所得を獲得している



⇒市外から所得を獲得しているのは木製品

## 龍ヶ崎で最も稼ぐ力があるのは「木材」

どの産業が効率的に稼いでいるか、全国値と比較できる係数で確認しました



⇒全国平均から見ると木製品がダントツ

## 龍ヶ崎で最も稼ぐ力があるのは「木材」

### 疑問

山もない関東平野の龍ヶ崎で  
どんな会社が稼いでいるのか？

商工観光課統計グループなどに  
聞いたり、調べたりしました

行きついた会社は…「北三（株）」

## 「北三（株）」ってどんな会社？

昭和31年：工場誘致条例

～条例をきっかけに～

龍ヶ崎に茨城工場を設置

昭和41年：工場を増設

平成8年：他工場から事業を集約

龍ヶ崎と歩んできた会社

## 北三(株)の代表的な商品

→ 「ツキ板」 = 天然木の内装材

(施工例)

- ・クルーズトレイン「ななつ星in九州」の装飾素材
- ・ANA国際便ファーストクラスシートの装飾素材

もしかしたら、転入者への地場産品  
プレゼント企画ができるかも？

「北三」ってどのような会社か  
しっかり聞いてみよう！

実際に行ってみました

## 「北三（株）」で聞いてみました

**Q.北三ってどのような会社なのですか？**

木材の卸&一次加工がメイン

**Q.加工はどこでやることが多いのか**

ほとんどが茨城工場です

**Q.どんなことが課題ですか**

地元の人に知られていない  
※最近では八原小の社会科見学を受け入れている

**Q.従業員ってどこに住んでいることが多い？**

龍ヶ崎もいるけど、市外の寮や最近では市外に住むことも多い

## 「北三（株）」で聞いた結果、感じたこと

●市内企業のことをもっと知らない

意外と業務上の接点がない

●市内に勤めている人に龍ヶ崎で遊んでもらったり住んでもらわない

勤務地と自宅の往復、もったいない

### 受入前の裾野市のイメージ

大規模な企業が古くから進出し、  
税収は大企業の法人税に支えられ、  
同市の決算状況等を見る限り  
財政状況はとても良好で  
定住促進には無縁

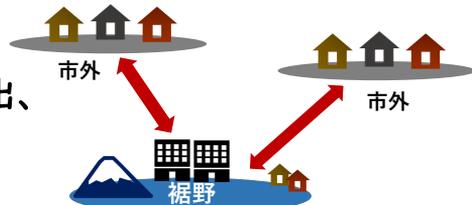


▼  
実際は？

### 裾野市で抱えていた課題

- ・ 近年働く場所は、裾野市内であっても他の近隣市に新居を構え居住する傾向
- ・ 同市の人口が転出超過にあるとのこと。
- ・ 市と共に成長してきた（トヨタの工場）企業が2020年末で閉鎖及び移転するとの話

▼  
地域経済やさらなる人口の流出、  
市の財政面などの影響を懸念  
していた



## 裾野市と民間企業との関係性事例

裾野市から企業撤退のニュースが流れたものの…  
世界で類を見ない実証都市が裾野市へ

### 【裾野市長コメント（抜粋）】

トヨタ「コネクティッド・シティ」プロジェクトにおいて、当市に、あらゆるモノやサービスがつながる実証都市「コネクティッド・シティ」が展開されるとの報に接し、歓迎の意を表します。

トヨタ自動車様は、昭和41年に当市に車両やエンジンの新技術の研究・開発を担う東富士研究所を開設して以来、53年の長きにわたり地域社会の一員として裾野市の発展とともに歩んできたパートナーです。今回、世界でも類を見ない実証都市を当市に計画されることは、この関係を更に深めることとなり、意義深いことでもあります。

職員派遣などの交流でも連携していた本当のパートナー

## 北三と裾野市の話で生まれた想い

実は…  
企業と定住促進って  
思っている以上に  
密接な関係があるのでは？

龍ヶ崎って企業との関係は  
どうなんだろう？

## 4.市の現状



### 4 市の現状

## 龍ヶ崎と企業の関わりって…？

大きく2種類に分類できる

市事業への  
協力

地域への  
社会的責任  
(CSR活動)

企業が社会や環境と共存し、持続可能な成長を図るため、その活動の影響について責任をとる企業行動であり、企業を取り巻く様々なステークホルダーからの信頼を得るための企業のあり方を指します。

### 市事業への協力

#### ①公共施設里親制度

市に代わって公園や道路、水路などの簡単な施設管理や環境美化活動を行う

#### ②コミュニティバス「まてまて」

バスを待つ際、バス停近くの店内を無料で利用できる！（トイレやベンチ等）

#### ③「消防団応援の店」

消防団員や家族にメリットのあるサービス（ドリンク1杯無料など条件はそのお店の判断）を提供している店舗

#### 龍ヶ崎市アダプトプログラム (公共施設の里親制度)

この公園は、



が清掃等の美化活動をしています。



### 地域への社会的責任

#### ①龍ヶ崎まちづくり・つなぐネット

「社会貢献・地域貢献を行いたい」「地域のまちづくりに協力したい」と考えている学校・事業所等（協力団体）は、協力したい市民活動の内容、提供したい物資などをあらかじめ市に登録して、企業が社会貢献を行う。



## 龍ヶ崎と企業の関わりって…？

市がやりたいことに  
“力を借りる” ケースが多い？



## 各部長に企業との関わりを聞いてみました

**Q** 民間企業と市の関係性をどう感じています？

- 談合や斡旋などを気にして、具体的な行動を起こせない  
(企業・役所の双方)
- 過去にトラブルはないと思われる
- 27年のまち・ひと・しごと創生でやっと明るみに出てきた
- これまでは右肩上がりの状態であったため危機感がなかった
- 企業のことは企業でやるべきという考え方があった
- これまで企業との連携を考えてこなかったため、どのようにやっていけばいいのかわからない
- 各企業に平等でなければならないという風潮が強い。
- 流通経済大学との連携を重視してきたためではないか



## 各部長に企業との関わりを聞いてみました



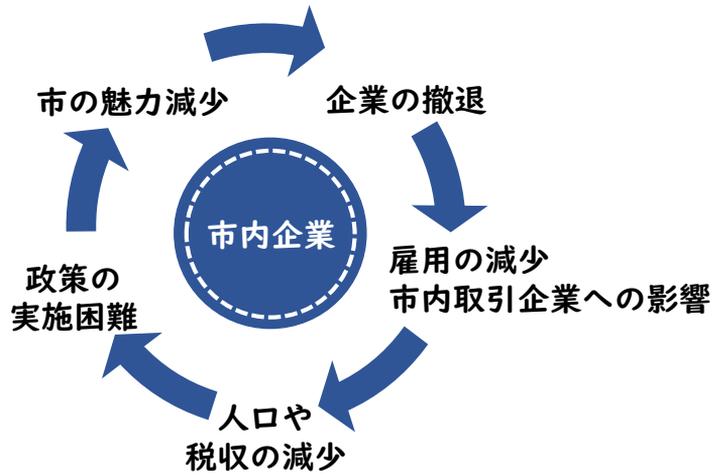
民間企業の関係性を構築するときどのような考え方で進めたら良いと思いますか？

- 民間と役所では考え方も違って勉強にもなるので、連携していったらよい
- 市ではどんなことを行ってほしいか・企業は何を市に行ってほしいか・行うことでお互いにどんなメリットがあるかというのを具体的にする
- 各企業が、どのような人材を欲しているかしっかり把握する
- 企業と就職を考えている人との間で起こっているミスマッチをどう解消するか
- 目立つ企業ではなくとも、市に対して一緒に行ったりPRしてほしいというような企業はないか
- 2年以内など期間を設けて取り組まないと企画倒れになってしまう
- 人事交流などもありではないか

## 各部長に企業との関わりを聞いてみました

各部長とも  
「企業との連携はしたほうがよい」  
けれども「手法」に課題があると  
感じている

## なぜ、いま市内の企業なのか



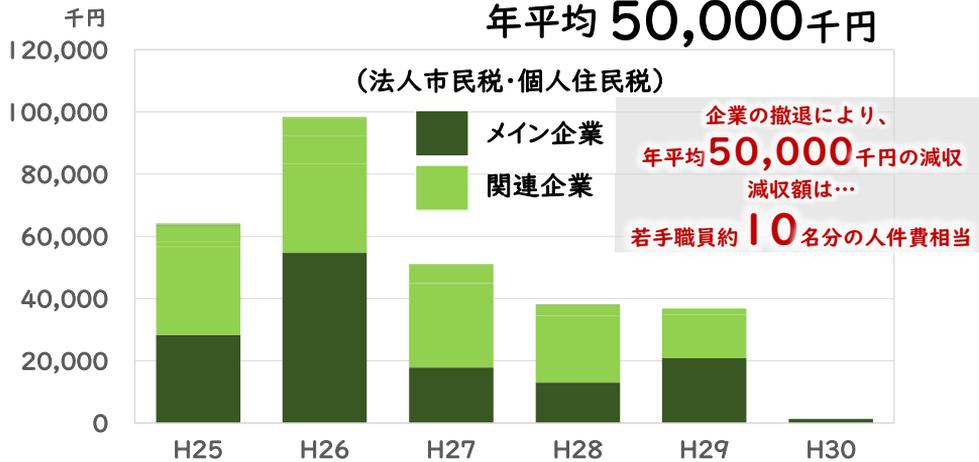
⇒企業の撤退は人口流出・税収減に繋がるリスク

## 龍ヶ崎市の企業撤退での影響事例

**実例**

近年、市内から撤退した企業からの年度別税収額

年平均 50,000千円



## 一方で企業との連携で 稼げる事業も



### ふるさと納税での寄附件数・金額

寄附件数	2,902件
返礼品個数	3,412品
寄附金額	159,555,534円
市からの支払額 (送料等含む)	49,191,655円

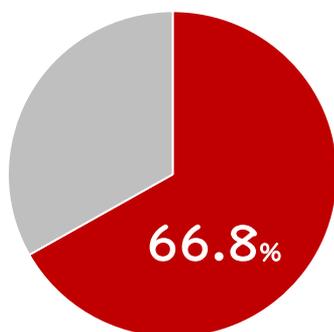


**結果** 市内企業の売り上げ増加・市の魅力発信



## 龍ヶ崎市の企業との連携の成功事例

返礼品をカガミクリスタル(株)とする  
寄付が金額約7割を占める



## 龍ヶ崎市の企業との連携の成功事例

カガミクリスタル(株)は・・・

平成30年度中実績

寄附金の総額約1億6,000万円

約**67%**寄附者(寄附金額約1億600万円)

寄附金の獲得に大きく貢献

寄附金の獲得と市の魅力発信、カガミクリスタル(株)にとっては売上の増加と商品PRが図られ、双方にとって利益のある関係(Win-Winの関係)が構築できている

## 5. 施策の方向性提案



5

施策の方向性提案

### 提案の方向性

来年度策定する次期最上位計画に  
以下の方向性を明記することを提案します。

方向性

市と市内企業の関わりを増やし、  
市が市民との橋渡し役になる。

企業連携とは…

これまで

市が力を借りる

これから

まちが儲かる仕組みづくり  
+  
市が力を借りる・貸す

龍ヶ崎の発展のために…

市と企業が**ONE TEAM**に

## 提案の方向性

ここから提案する内容は、  
他自治体の事例などをもとにしています。

次期最上位計画に掲載された際には、  
本市に置き換えて実施可能ではと  
考えられる施策です

## 提案① 市内企業の合同就職説明会

### 市内企業が一堂に会する合同就職説明会の開催

#### 対象

就職希望者、進学希望者問わず全ての学生対象

#### 場所

- ① 市内高校
- ② 流通経済大学（一部実施済）
- ③ 市施設にて（文化会館、アリーナなど）

将来、就職する際に龍ヶ崎市選択肢に入る  
市のPRも盛り込むことで市の良さに気が付いてもらう機会  
企業を知ってもらえるチャンス  
タダで企業紹介ができる場

## 提案② 市内企業の合同就職説明会

### 市外での企業合同就職説明会の開催

**対象** 市外在住の大学生が対象

**手法** 市外で他自治体などと合同で実施

市外在住者に龍ヶ崎の企業や暮らしを知ってもらうきっかけづくり  
規模が大きくなることで、参加者が集めやすくなる  
市内企業の他自治体企業とのつながり獲得

## 提案③ 市内企業の紹介ページ作成

### 市内企業へのリンクページを作成

市のホームページを見れば  
市内企業の情報が分かるページ

市が地元企業の情報を掲載し、  
情報の接点を作る

## 提案③ 市内企業の紹介ページ作成

### 事例

### 須賀川市公式ホームページに企業紹介ページ



## 提案③ 市内企業の紹介ページ作成

### 事例

### 須賀川市公式ホームページに企業紹介ページ



業種別などに  
区分けし、  
企業のサイトへ  
誘導

### 提案③ 市内企業の紹介ページ作成

#### 企業のメリット

- ・ 小さな事業所でも広告料をかけずにPR可！
- ・ 地元の人が就職すれば、交通費の支給削減に！
- ・ 地元企業同士のコミュニティ構築で悩みを共有しお互いの業績アップに
- ・ 事業者が企画する手間がかからない！

### 提案③ 市内企業の紹介ページ作成

#### 利用者のメリット

- ・ 大手サイトに載っていない情報が一度に入手できる！しかも一度に！
- ・ 求人票からは得られない情報を入手できる
- ・ 龍ヶ崎で働くには工場しかない…なんてイメージが払拭できるかも？

### 提案③ 市内企業の紹介ページ作成

#### 市のメリット

- ・ 市内勤務者が増えれば人口の流出防止に！  
市税確保！
- ・ 市も便乗して一緒にPRすれば、優秀な  
職員GETできるかも！？
- ・ 市の魅力を発信するよい機会！シビック  
プライドの醸成にも効果あり！

### 提案④ 市内企業を巡るサマーキャンプ

#### 市内企業を巡るサマーキャンプ

**対象** 小学生・中学生

**内容** 夏休みに市内企業を巡る1泊2日のキャンプ  
宿泊は湯ったり館

市内の小学生が行動範囲外の企業を知ってもらうきっかけづくり  
市内企業を知ることでのまちへの愛着醸成  
子どもが親に話すことで、親が企業に興味を持つ可能性も  
〇〇教室などをするにより、市内企業同士や人の接点づくり

## 提案④ 市内企業見学ツアー【先進事例】

### ●山口県

#### 「企業見学ツアー」

<県の商工労働部主催>

県内企業を知るツアー

(展示会場で行われ、就活説明会的なイメージ)

### ●三郷市

#### 「農の社会科見学ツアー」

<市の農業振興課主催>

収穫体験ツアー。

本年まもなく（令和2年3月14日）実施予定。

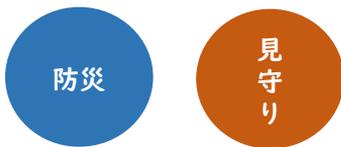


## 提案⑤ 市と企業の双方にメリットがある連携協定

### 市と企業の双方にメリットがある協定

現状

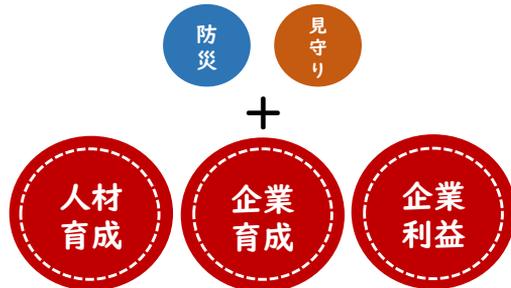
龍ヶ崎 × 企業



万が一に備えた協定

これから

龍ヶ崎 × 企業



## 提案⑤ 市と企業の双方にメリットがある連携協定

**事例** 茨城県つくば市の地元企業との協定

### CYBER DYNE×つくば市×茨城県

1. 革新的医療機器等の研究開発
2. 次世代の科学技術を担う人材育成
3. 新事業・新産業を創出する起業支援
4. ロボットをはじめとする最先端技術を社会実装するための取組

## 提案⑤ 市と企業の双方にメリットがある連携協定

**事例** 岐阜県飛騨市の大手民間企業との事例

### 楽天×飛騨市

1. 楽天グループの電子マネー「楽天Edy」を活用した飛騨市ファンクラブ制度構築と推進
2. ふるさと納税の推進
3. 飛騨市内の事業者のモバイル決済利活用の促進
4. 国内外に向けた飛騨市産品の販路拡大
5. 耕作放棄地の活用および新規就農者育成
6. 被災時のドローン活用および物資輸送試験
7. 森林の保護および整備
8. 飛騨市内の事業者へのIT利活用促進
9. 飛騨市内のIT学校
10. 観光誘客の促進

## 6.まとめ



6  
まとめ

## まとめ

### メンバーからの感想

今年度から定住促進プロジェクトに入りました。

私は生まれてからずっと龍ヶ崎に住んでいます。龍ヶ崎が大好きで、シビックプライドはかなり高いと自負しています。でも、それを誰かに伝えようとしたことはなかったし、共有しようと思ったこともありませんでした。

ところがこの1年、定住促進プロジェクトで活動し、自分が龍ヶ崎を好きなのだけではだめなのだと気づかされました。これからも龍ヶ崎が持続可能な市であり続けるために、たくさんの市民がシビックプライドをもてるよう活動したいと思います。

また、今回は企業に注目したわけですが、長年龍ヶ崎に住んでいても、市内の企業について考えたことはありませんでした。ただ、これは私だけではなく、同じように市内の企業について知らない人は多いのではないかと思います。

今回の発表にもありましたように、やはりこれからは、市と企業の連携が必要不可欠だと思います。企業が今どんなことを考え、何を求めているのか、まずは知ることから始めていけたらいいのかなと思いました。

## メンバーからの感想

駒柴小学校の出前授業で「佐貫駅前には田んぼだったよ」と話したときに「え〜!？」という驚きの反応がありました。子供たちは知らないことに興味津々で、メモを取ったり、真剣に話を聞いている姿がとても印象的で、こういう子供たちが龍ヶ崎の将来を担っていくのだなと感じました。

私にとっても調べてみると知らないことがたくさんありました。今年度行ったデータ分析の「北三」の話もそうですが、深掘りしてみると昨年度の情報収集やデータ分析からは見いだせなかった新たな発見があり、そこから連携が生まれていくのかなと感じました。データ分析は接点を持つきっかけ作りにはなりません、こういうきっかけをたくさん築いていくことが大切ではないかと考えます。

最後に、自分で調べて知識として積み上がると、まちへの愛着も高まると共にシビックプライドの醸成にも繋がると実感しました。

人の意識・動き

+

企業の意識・動き

「活用」 → 「連携」へ

「活用」

生かして使うこと。

「連携」

同じ目的で何事かをしようとするものが、連絡をとり合ってそれを行うこと。

## まとめ

これまでの市と企業の関係は、市がやりたいことに企業を「活用」することで実現させることもあった。

持続可能なまちづくりのために、これからはこの関係性をさらに一歩前に進めて、市が企業とお互いに儲かる仕組みづくりを構築する必要がある。

新たな可能性を探るために、市と企業がスクラムを組んで、人口減少社会に立ち向かうために本当の「連携」が必要な時期が来ている。



## まとめ

住みたいと人に選ばれるだけでなく、  
龍ヶ崎で事業を続けたいと  
企業からも選ばれ続けることも  
結果的に定住促進に繋がる



## 提案の方向性

来年度策定する次期最上位計画に  
以下の方向性を明記することを提案します。

方向性

市と市内企業の関わりを増やし、  
市が市民との橋渡し役になる。

これまで以上の  
企業との連携構築を  
提案します



## 【コラム】「対話」を進めるための…

### 定住促進プロジェクト流アイデア集

定住促進プロジェクトは、毎月1回の定例会議を中心に、各メンバーがそれまで収集した情報やデータ、施策案などを共有化し、「対話」を行いながら、議論の集約を図っています。全員集合できるような機会は少なく、どのように「対話」の質・量を高めていくか、アイデアを出し合いながら活動しています。

今回は、そんなアイデアのいくつかをご紹介します。

#### 会議の座席は「くじびき」で決定

毎回の会議の座席は、出席者で「くじびき」（主には「あみだくじ」）で決定します。これは、「対話」の質を高めるための取組です。「対話」を促進するためには、まず、メンバー間の人間関係を良好に保ち、その「人となり」を理解する必要があります。そのために、可能な限り毎回違うメンバーと隣り合い、プロジェクトの議題だけでなく、雑談も含めて、多くの人と話し、相互に理解しえるような状況を意図的に作っています。

また、メンバー間の人間関係が構築できれば、それぞれのメンバーの発言や行動の特質や傾向などを把握・理解しやすくなり、スムーズな会議運営ができるのではないかと考えています。そのようなことを意図して、この取組を行っています。

#### Google アカウント、LINE、Sli.do など IT ツールの活用

予定している時間内で、かつ、様々な職場からプロジェクトのメンバーは集まっているため、情報共有の場の設定や機会の創出は、なかなか難しいのが現状です。そのような状況を少しでも解決できるよう、様々な IT ツールを活用して、活動しています。

例えば、今年度のまち歩きに関しては、Google マップを使い、訪問する場所やルートを共有化し、そのマップを見ながら、実際に歩きました。また、気になる情報や先進事例を見つけたときは、グループ LINE に投稿して、メンバー間で共有し、意見を交換するなど、IT を活用した取組を行っています。

加えて、成果報告会においては、聴講されている職員からできるだけ多くの意見をもらいたいということで、質疑応答に関して、オンラインのディスカッションツールである Sli.do（スライドウー）を使って、手挙げ方式だけでなく、手元のスマートフォンなどからオンラインで意見を出すことができるようなものを試行しました。

#### 積極的に活動している「公務員」の情報をシェア

国や他自治体においては、地域振興やまちづくり、人事や財政制度など幅広いジャンルについて、自身の業務以外の場面でも活躍する公務員が多くいます。このような公務員の情報をインターネットや書籍、実際に行われている勉強会などでメンバー個人が得た情報を全員で共有化し、それらを参考にしながら、身近なことや簡単にできることなどは、自分自身でも積極的に活用して、行動をするようにしています。

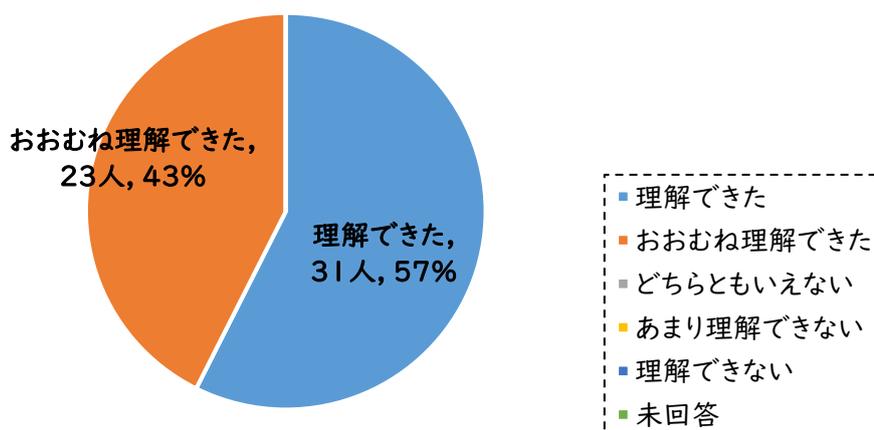
特に、「定住促進」のような市全体・社会全体にかかわるような課題については、自分の職場だけ得られる情報だけでは、どうしても情報量が不足します。それを補うため、積極的に外へ出て、情報を取得してくる必要があると考えています。

### 3 資料編

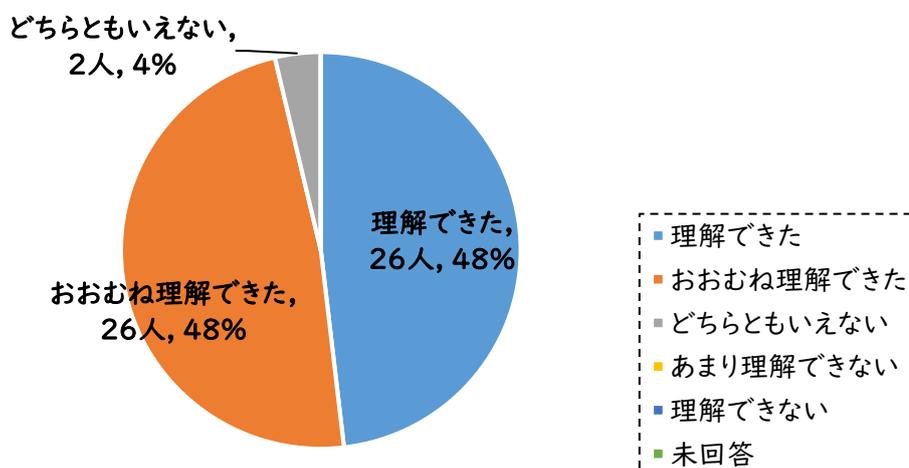
#### (1) 成果報告会アンケート結果

日時：令和2年2月18日（火）午後1時～午後2時30分  
場所：本庁舎5階第1委員会室  
参加者数：65人  
アンケート回収数（回収率）：54件（83.08%）

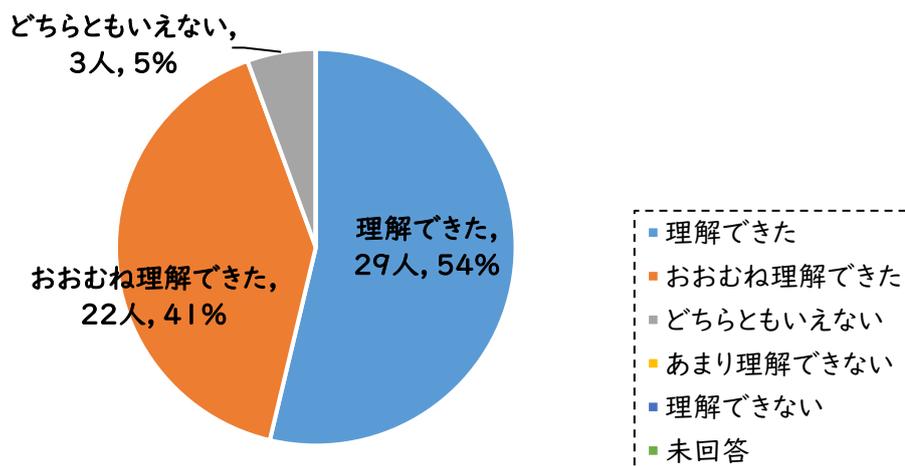
問1 報告会の内容について、どのくらい理解できましたか。  
【報告会の全体の内容】



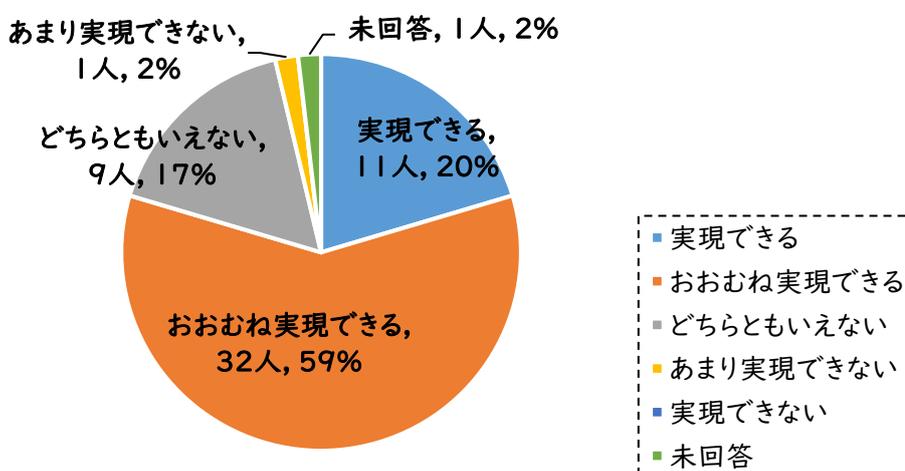
【データ等の内容や分析結果】



## 【施策提言の内容】



問2-1 報告会の内容について、実現できると思いましたか。

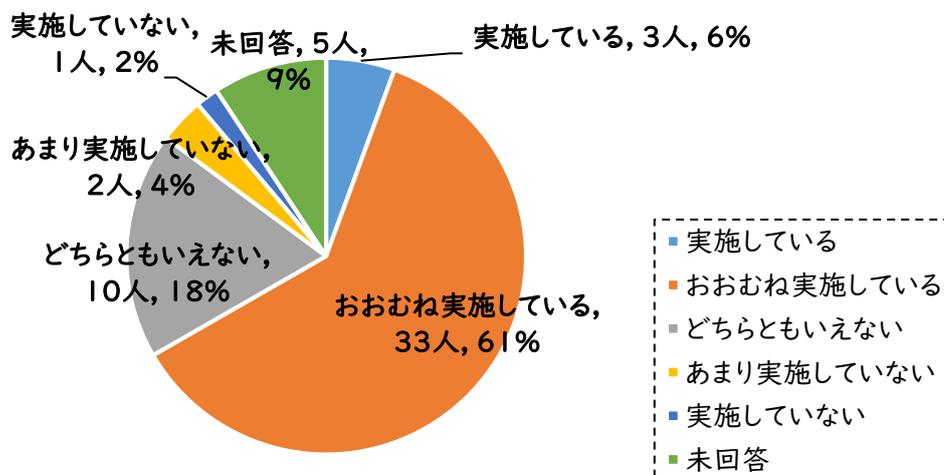


問2-2 問2-1で「どちらともいえない」「あまり実現できない」「実現できない」と回答された方は、なぜそう思うか記入してください。

### 【主な回答】

- ・本市の企業と具体的に連携できる取組を示してほしかった。
- ・民間企業という相手が必要な提案であり、企業の多様性など、本市の状況を鑑みると、企業がメリットを得られる取組とするのは、少し難しいのではないか。
- ・市としての優先順位や市が行うことの限界など、困難な部分が多い。
- ・もっと具体的な施策でないと、実効性が担保されない。
- ・提案の企業紹介のホームページなどは、作るだけでなく、どのようにそのページへ閲覧者を誘導するかが問題である。
- ・企業との連携の場面で、企業が求めるような専門知識や経験を持つ人材が市にあるのか少し疑問である。
- ・限られた人員では実現は無理と思う。実現するには、体制の整備が急務である。

問3-1 施策立案や事業実施に当たっては、的確なデータ収集と分析が必要と考えますが、あなたの課等では、この視点を持って常に事業等を実施していると思いますか。



問3-2 問3-1で「どちらともいえない」「あまり実施していない」「実施していない」と回答された方は、なぜそう思うか記入してください。

【主な回答】

- ・ 日常業務への対応で手いっぱいであるため。
- ・ データが重要であるという視点を持った職員が少ない。
- ・ 業務上、データの分析をする機会がない。
- ・ 経験や感覚に基づく方法での事業運営がされている。

問4 定住促進プロジェクトで、今後検討テーマとして取り上げる必要があると思うものは何ですか。

【主な回答】

- ・ 定住促進プロジェクトで、何か一つ事業を立ち上げてやってみてはどうか。
- ・ 持家を検討している方を対象とし、不動産業界などと連携し、ICTを活用したマッチング事業について
- ・ 子どもが興味を持つまちづくりについて
- ・ 事務事業の見直し
- ・ 定住促進プロジェクト本体や今回の成果報告会などへの民間の人材を参加させてはどうか。
- ・ 人口増加について
- ・ 職員の意識改革。一歩先に進める人材育成
- ・ 職員の本市への定住促進
- ・ 自然や景観、文化、歴史、芸術など、もう少し幅広くシビックプライドについて考えてはどうか。
- ・ 学校との連携
- ・ 住民が必要としている交通機関は何か。

問5 その他、意見等がございましたら御記入ください。

【主な回答】

- ・提案の企業の合同説明会は、既にやっているものもある。その中でも、大学生に対してなど、現段階で成果を出すのが難しいものなどについて、担当課と連携して取り組んでほしい。
- ・市の事業として行う上で、企業との距離感が難しいと感じた。
- ・企業と市民の橋渡しを市が行うのであれば、企業や市民それぞれのニーズや状況の理解が大切である。
- ・人口の流出を防ぐためには、子どもたちに龍ヶ崎のよさを実感させ、将来も龍ヶ崎に住みたいと思ってもらえる教育をしていくことが大切である。今回の報告の視点を入れたカリキュラムが必要と感じた。
- ・報告会の内容を聞いて、どんな業務であっても「地元愛」を持って対応していきたいと思った。
- ・データを収集し、メリット・デメリットを分析することは、事業や施策の企画段階で重要なことではあるが、結果を引き出すための意図的な分析は、してはいけないことを意識して、分析してほしい。
- ・市と企業双方の利益にかなうのか、という視点も念頭に置いておいてほしい。
- ・転入者や転出者が「なぜ」転入し、転出するのか、その点をピンポイントに攻めていくとよいのではないか。
- ・若手職員は、積極的に庁外へ出て、市民や企業の意見に耳を傾けてほしい。

## (2) 龍ヶ崎市定住促進プロジェクト設置規程

### 龍ヶ崎市定住促進プロジェクト設置規程

制定 平成30年4月27日  
龍ヶ崎市訓令第12号  
改正 平成31年4月1日  
龍ヶ崎市訓令第7号

#### (設置)

第1条 人口減少が予測される中，人が集まる魅力ある都市づくりを推進し，人口を呼び込み，人口を減らさないための定住促進施策に関して必要な調査検討を行うとともに，市内の連携した取組を促進するため，龍ヶ崎市定住促進プロジェクト（以下「プロジェクト」という。）を設置する。

#### (所掌事項)

第2条 プロジェクトは，次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 人口動態等定住促進に係る基礎的情報の調査及び分析に関すること。
- (2) 定住促進に係る既存の事務事業の見直し等及び新たな事務事業の創出の検討に関すること。
- (3) 定住促進に係る先進事例等の調査研究に関すること。
- (4) 定住促進に係る市内の連絡調整に関すること。
- (5) 定住促進に係る事務事業のうち，プロジェクトで実施するものとして市長が認めるものの実施に関すること。
- (6) その他定住促進に関して必要な事項に関すること。

#### (組織)

第3条 プロジェクトは，次に掲げる者（以下「構成員」という。）のうち，15人以内をもって組織する。

- (1) 財政課，企画課，シティセールス課，こども家庭課，市民窓口課，税務課，交通防犯課，商工観光課，農業政策課，都市計画課，都市施設課，教育総務課，文化・生涯学習課又は指導課に所属する職員であって希望するもののうち，市長が選出したもの
- (2) 前号の規定により選出された職員の所属課以外の課等に所属する職員であって定住促進に関し問題意識を持ち，募集に応じたもののうち，市長が選出したもの

#### (リーダー及びサブリーダー)

第4条 プロジェクトにリーダー及びサブリーダーを置き，構成員の互選により選出する。

- 2 リーダーは，プロジェクトを代表し，会務を総理する。
- 3 サブリーダーは，リーダーを補佐し，リーダーに事故があるとき，又はリーダーが欠けたときは，その職務を代理する。

(会議)

第5条 プロジェクトの会議（以下「会議」という。）は、リーダーが必要に応じて招集し、リーダーが議長となる。

2 リーダーは、必要に応じて会議に関係職員、学識経験者その他関係者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(報告)

第6条 プロジェクトは、会議において調査検討した結果及びプロジェクトで実施した事務事業の実施状況について、庁議又は庁議の構成員が出席する報告会等において報告するものとする。

(庶務)

第7条 プロジェクトの庶務は、市長公室企画課において処理する。

(委任)

第8条 この規程に定めるもののほか、プロジェクトの運営に関し必要な事項は、リーダーが会議に諮って定める。

付 則

この訓令は、公布の日から施行する。

付 則（平成31年4月1日訓令第7号）

この訓令は、公布の日から施行する。

### (3) 龍ヶ崎市定住促進プロジェクト設置要領

#### 龍ヶ崎市定住促進プロジェクト設置要領

平成30年4月 市長公室企画課  
(平成31年4月改訂)

#### 1 設置の目的

定住促進に係る先進事例等や基礎的情報(人口動態等)の調査分析及び既存の定住促進に係る事務事業の見直し等や新規事業の創出の検討等を行い、その結果を庁議等へ報告することで、定住促進に係る施策提言等を行い、本市の定住促進を推進することを目的とする。また、併せて定住促進に係る庁内の連携強化及び若手職員の育成を図ることを目的とする。

#### 2 構成メンバー

次に掲げる課等の職員のうち原則主幹以下の若手職員15人以内をもって構成する。若手職員の斬新な発想や高い情報収集能力に期待し、あわせて、若手職員の仕事に対する問題解決能力や意識の向上を図ることも期待できるため、あえて原則主幹以下の職員のみで構成するものである。

また、定住促進に関しては、今後の市を担う存在である若者の意見反映が重要であることから、まずは庁内の取組として、若手職員に限定し、闊達な意見が交わされることを期待するものである。

(1) 企画課，シティセールス課，都市計画課に所属する職員：各1人・計3人

※ 現段階における定住促進の主管課

(2) 財政課，こども家庭課，市民窓口課，税務課，交通防犯課，商工観光課，農業政策課，都市施設課，教育総務課，文化・生涯学習課，指導課に所属する職員：最大8人まで

※ 定住促進の関係課(関連事業や基礎的情報の主管課)

(3) 前2号の規定により選出された職員の所属課以外の課等に所属する職員で募集選考されたもの：最大5人まで

※ (2)及び(3)併せて12人となるよう調整を行う。

※ 構成メンバーの任期は、選任された日から当該年度の3月31日までとするが、再任を妨げないものとする(人事異動等もあるため、原則当該年度内とするものである。)

#### 3 所掌事項

(1) 人口動態等定住促進に係る基礎的情報の調査に関すること。

⇒ 定住促進に係る施策を検討するに当たっては、まず龍ヶ崎市の基礎的情報を調査し、これを分析することは必須である。具体的には、近年の人口動態（転入者・転出者の数、世帯構成、転入又は転出した住所等）や居住・所有資産の状況（持ち家か借家か、世帯の収入状況等）、転入・転出要因調査、各種アンケート調査の結果の分析等が該当する。分析に当たっては、国が提供する地域経済分析システム（RESAS）等のビックデータ等も併せて活用する。

(2) 既存の定住促進に係る事務事業の見直し等及び新たな定住促進に係る事務事業の創出の検討に関すること。

⇒ シティプロモーション、住宅取得に係る補助金等直接的に定住促進施策として既に実施している事業はもちろんのこと、その他の事業であっても定住促進と連携することができる事業を見つけだし、事業の見直し等を図ることで、より定住促進に効果の高い事業として編成しなおす等の検討を行い、また、新たな定住促進施策の創出に係る検討を行う。

(3) 定住促進に係る先進事例等の調査に関すること。

⇒ 他自治体の先進事例等を調査・情報収集し、分析を行う。また、業務外でも情報収集を行う「くせ」を付けてもらうように促すことで、職員の仕事に対する問題解決能力や意識の向上を図る。

(4) 定住促進に係る庁内の連絡調整に関すること。

⇒ 定住促進に関する事務事業は、現在それぞれの所管課において実施されており、それを統一的・総括的に主管する部署がなかったことから、プロジェクトがその機能の一部を担えるようにする。また、プロジェクトの構成員が、主体的に、組織横断的な調整事務を行えるようにする。

(5) 定住促進に係る事務事業のうち、プロジェクトで実施するものとして市長が認めるものの実施に関すること。

⇒ 施策提言した事業で実施することとなったもののうち、プロジェクトが実施するものとした事業については、プロジェクトとして事業の実施を担う。

(6) その他定住促進に関して必要な事項に関すること。

⇒ その他必要に応じて勉強会の開催や視察研修等を検討する。

#### 4 事務局

市長公室企画課地域戦略グループ



「人が元気 まちも元気 自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎」へ

令和元年度  
龍ヶ崎市定住促進プロジェクト成果報告書  
令和2年3月 市長公室企画課